

全天候型の自動運転バス「GACHA」を開発した フィンランドの Sensible 4 と協業

ソフトバンク株式会社の子会社である SB ドライブ株式会社（以下「SB ドライブ」）は、全天候型の自動運転バス「GACHA（ガチャ）」を開発したフィンランドの Sensible 4 Oy（以下「Sensible 4」）と協業します。SB ドライブと Sensible 4 は、ヨーロッパおよび日本で自動運転バスを普及させることを目的に、まず SB ドライブの自動運転車両運行プラットフォーム「Dispatcher（ディスパッチャー）」と連携させた「GACHA」を、フィンランドの公道で運行させる予定です。

「GACHA」は、先進的なセンサーを活用した自車位置の高精度な推定と障害物検知により、大雨や雪、霧が発生している場合などでもあらかじめ設定したルートを自動走行することが可能な車両です。また、「Dispatcher」は、複数の自動運転車両の運行を遠隔地から同時に管理・監視できるプラットフォームです。車内での転倒事故につながりやすい、乗客の着座前発進や走行中の車内移動などを AI（人工知能）で検知して遠隔監視者や乗客に注意喚起を行う機能や、それらの事象が過去に発生した箇所や回数を地図上で確認して運行ルートや車両設定の改善に利用できる機能、出発地と目的地を指定して遠隔地から車両に走行指示を出す機能などを備えています。SB ドライブと Sensible 4 は、「Dispatcher」と連携させた「GACHA」の運行実験を実施する他、自動運転バスの運行オペレーションの確立に向けて自動車メーカーと提携することも視野に入れていきます。

Sensible 4 の CEO である Harri Santamala は、次のように述べています。

「Sensible 4 にとって日本は非常に魅力的な市場です。Sensible 4 と SB ドライブはこのたびの協業を通して、自動車産業に新たなソリューションを提供し、“移動”を変革させることを目指します。Sensible 4 は、コアとなる自動運転技術以外の領域では、SB ドライブなどの他社とパートナーシップを組むことで、1 社では成し得ないものを作り出すことに取り組んでいます。Sensible 4 と SB ドライブは、現在できることに早期に取り組み、まずは『GACHA』のフィンランドでの運行実験に向けて、SB ドライブの『Dispatcher』と Sensible 4 のシステムを連携させました」

なお、「Dispatcher」は現在、Navya 社のハンドルがない自律走行バス「NAVYA ARMA」や、日野自動車株式会社の日野ポンチョと日野リエッセをベースに先進モビリティ株式会社が改造した自動運転バス、スズキ株式会社の普通自動車「ソリオ」※1、TLD 社のトーイングトラクター※2「TractEasy」※3 など 10 種類の車両の運行管理・監視に利用することが可能です。SB ドライブは、今後もさまざまな自動運転車両の運行管理・監視に「Dispatcher」を利用できるよう開発を進めていきます。

※1 先進安全技術を取り入れた車両が対象。

※2 貨物をけん引する車両。

※3 自動運転ソフトウェアを組み込んだ車両が対象。

■ 「GACHA」 について

最高速度	40km/h
動力	電動機
航続可能距離	100km 以上
車両寸法	全長：4.5m、全幅：2.4m、全高：2.8m
乗車定員	16 人（座席数：10）

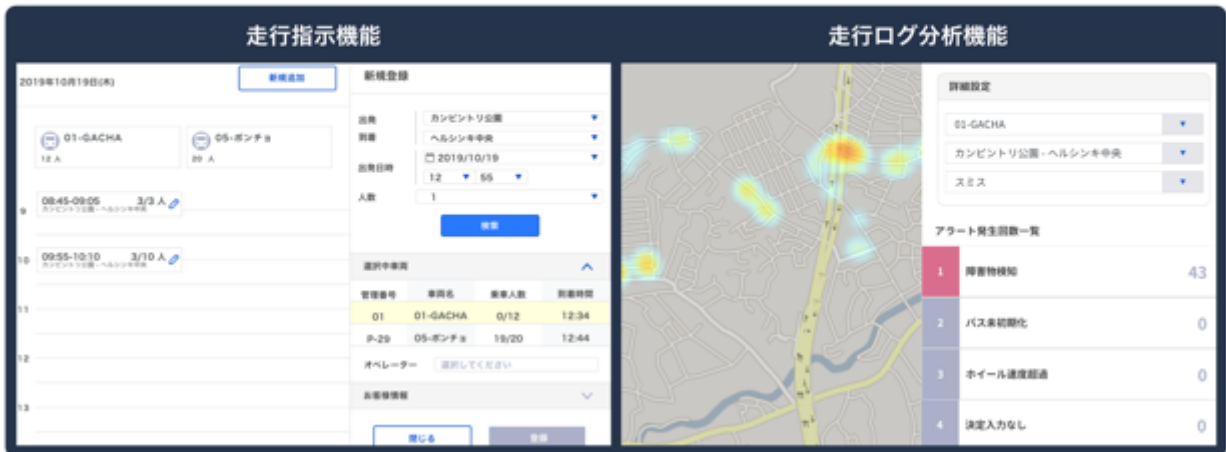
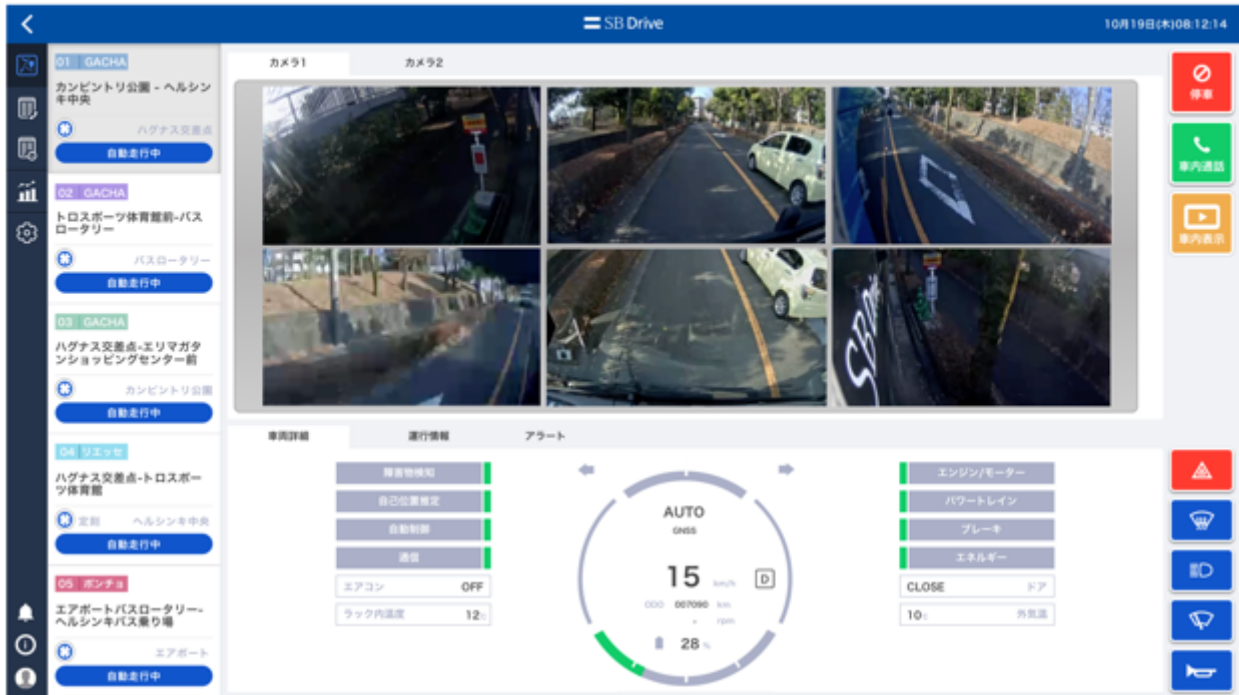


走行する様子

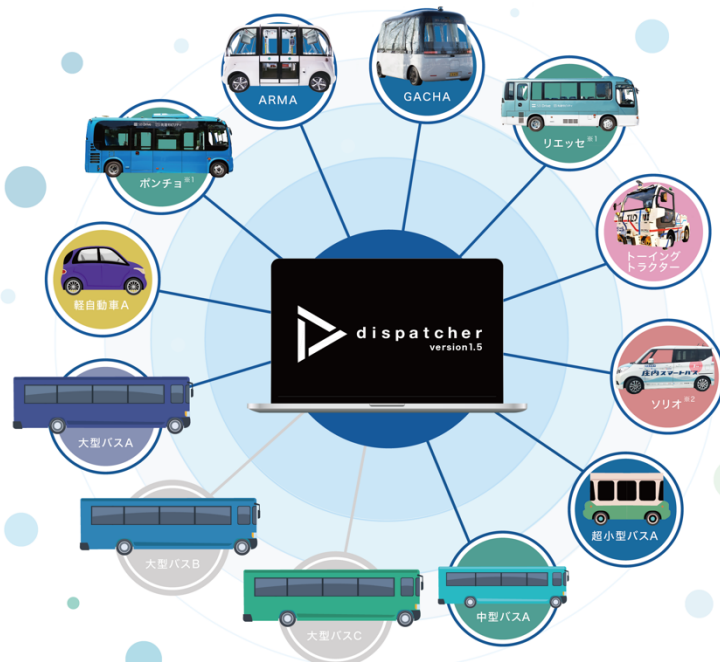


内観

■ 「Dispatcher」 のイメージ



■ 「Dispatcher」 の接続車種イメージ図



※1 日野ボンチャと日野リエッセをベースに先進モビリティ株式会社が改造した自動運転バスが対象です。
 ※2 スズキ株式会社の先進安全技術を取り入れた車両が対象です。

- このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。
- このプレスリリースに記載されている内容、製品・サービスの価格、仕様、問い合わせ先およびその他の情報は、発表日時点のもので、これらの情報は予告なしに変更される場合があります。